



新年を迎えて

会長 長瀬 清

明けましてお目出度うございます。会員ならびにご家族の皆様にはお揃いで佳い年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

一昨年は新型インフルエンザの大流行で日本否世界中が右往左往する大混乱の一年でした。昨年は第2波襲来が心配されましたが、杞憂に終わりほっとしました。しかし、今年も油断は禁物です。

歴史的な政権交代の後、日医では昨年4月に会長等役員選挙が行われました。3名(唐澤、原中、森)の有力会長候補の争いとなりました。過去長期にわたり、日医は政権与党であった自民党を支持してきました。昨年の選挙では多くの方が自民党一辺倒を批判し、民主党支持を明確にした原中候補を会長に選出しました。選挙後日医の進路の取り方に関して激しい議論が戦わせられました。「政治なければ医政なし、医政なければ医療なし」で、医療政策推進上当然政権与党との接触が不可欠となります。人の考えはさまざまで当分の間議論が続くことになるでしょう。

診療報酬改定で8年ぶりにプラス改定となりました。医療費の増加分はほとんどが公的病院等大病院に回され、診療所や中小の民間病院には厳しい結果でした。大病院の勤務医対策としてやむなしと是認めされましたが、日本の医療を支えているのは診療所、中小病院であることを認識し、その機能が十分に発揮できるような配慮も必要であることを忘れてないで欲しいものです。

政権は取ったものの、公約を果たすべき財源は思ったほど見いだせず、不適切な沖縄米軍基地問題対応、コンセンサスの得られていない消費税増税発言、政治と金の問題等失政続きで国民の信頼は地に落ちてしまいました。チェンジを掲げ当選したアメリカのオバマ政権も思うにまかせず同様の憂き目にあっています。

尖閣諸島、竹島、千島を中国、韓国、ロシアから領有権を巡って攻められ日本の主権を守り通せるのか、米国頼りの日本の立場は極めて不安定です。中国が清王朝末期の時代に日本を含めた世界の列強から国を侵食された歴史を重ね合わせ不安を感じます。

11月末に補正予算はかろうじて国会を通過しましたが、来年度予算がどのように決まるのか姿が見えず気がかりです。内閣の掲げる強い経済、強い財政、強い社会保障に向けて着実な取り組みを期待し

たいと思います。しかし、一方では経済成長戦略として医療・介護の雇用拡大は良しとしても、混合診療容認や外貨獲得を積極的に図るとして医療ツーリズムの推進を支援したり、特区による外国人医師による診療の導入の道が開かれつつあり、これは国民皆保険制度を守る立場から許されないことです。慎重に事を進めてもらいたいものです。

今年の春には地方選挙が一斉に行われます。現在の政治情勢が少なからず結果に影響を与えることになるでしょう。また総選挙が行われる可能性も巷には聞こえてきています。選択を間違えないようよく考え貴重な1票を投じたいものです。

平成24年は医療と介護報酬同時改定です。加えて介護保険制度の見直しの年でもあります。医療と介護の連携がポイントであり、従って私たちにとって今年は向後を決める大変重要な年になります。介護療養型病床の全廃は一時停止となっていますが、行方はまだ確定していません。いたずらに混乱を引き起こさせる政策立案、施行は、施設や利用者を困惑させるものでいかがなものでしょうか。

民主党政権になって、最初に着手したのが公約にある後期高齢者医療制度の廃止でした。これに代わる制度作りは容易ではなく、折角作ったものの十分な議論と国民への説明不足でまた頓挫するようにならないようしっかりした制度を作らなければなりません。日医はこれを機に各種医療保険の一本化を提言しています。かつて強く主張をしていましたが実現しないまま時間がたちました。実現に向けて共に努力したいと思います。

医師の不足、偏在が言われて久しくなりますが、改善の妙案はなく地域医療は相変わらず崖っぷちに立たされています。専門医取得前の研修時期に地方勤務を義務化すべきとの意見もありますが、総論賛成各論反対で実現は困難です。地域の先生方は率先して医師不足に対応して下さっていますが限界です。道医や病院協会は道に協力して医師派遣の手伝いをしそれなりの成果を上げています。引き続き皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

今年も多くの問題に対して、粘り強く一つ一つ解決に向けて努力をする決意しております。会員皆様の強いご支援・ご協力のほど心からお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

CONTENTS

北海道医報
平成23年1月1日 第1108号

年頭の辞／新年を迎えて	長瀬 清	2
年頭所感	原中 勝征	4
年頭所感	高橋はるみ	5
医の倫理綱領		7
報告／北海道救急医療フォーラム・網走市	目黒 順一	8
平成22年度 社会保険医療指導委員協議会	藤原 秀俊	11
民主党北海道総支部連合会 平成22年度政策懇談会	直江寿一郎	12
政権交代と政策転換シンポジウム	直江寿一郎	13
罷熊通信／留萌医師会	三輪 英則	14
税務相談室／繰延資産	中村 孝一	15
北海道医歌人会詠草		18
特集／新春随想		19
郡市医師会だより／札幌市医師会「市民医療フォーラム2010」	鈴木 伸和	48
第37回 全道医家囲碁大会		50
医学会・医学講演会等 開催情報		54
中央54 道南58 日胆58 空知59 道北59 北見61 道東61		
その他開催情報		62
会議室／第16・17回 常任理事会		64
道医の動き		68
売貸医院・医師招聘情報		69
新規指定医療機関		71
訃報		73
道医師国保の頁		74
季節風／ピア・レビュー (Peer Review)	藤原 秀俊	80

お知らせ

電子メールによる会員への情報提供⑩／特定健康診査に関するお知らせ⑩

電子メールアドレス発行申し込みのご案内④⑦／第45回 北海道ドクターズゴルフ大会開催予告⑥⑨

認定産業医制度 研修会一覧⑥⑩／認定健康スポーツ医制度 再研修会一覧⑥⑩

道医サポートセンターのご利用について⑦⑩／グループ保険のご案内⑦⑩

北海道医師会会員数 8,416名 (+7) うち日本医師会会員数 6,091名 (+1)

A	2,571名 (-6)	B2	4,582名 (+15)	C2	173名 (-1)
B1	556名 (-2)	C1	109名 (±0)	C3	425名 (+1)

平成22年11月30日現在 () 内前月比

作品紹介

いわはし えいえん

岩橋 英遠 陸軍記念日の村の小学校

1903 (明治36) 年～1999 (平成11) 年

空知郡江部乙村 (現・滝川市) 生まれ。本名・英遠 (ひでと)。1928 (昭和3) 年の作品。絹本彩色 (115.5×146.0)。

家業のりんご園を手伝いながら、独学で絵を学ぶ。1924 (大正13) 年、21歳で上京し、山内多門の塾に入門。1934年、院展初入選。戦後は安田靉彦門下に加わり、日本美術院を中心に活動を続けた。

洋画の手法も取り入れつつ、大自然の事象を詩情豊かに壮大なスケールで表現した独自の画境を築き上げ、深い精神性と優れた造形

北海道美の遺産

解説・写真提供：北海道立近代美術館
(札幌市中央区北1条西17丁目 011-644-6881)

力を兼ね備えた作品世界を展開した。

東京藝術大学教授、日本美術院理事を経て、1981年日本芸術院会員、1989年に文化功労者、1994年には文化勲章を受章。

滝川市美術自然史館には、一木万寿三、上田桑鳩らとともに常設展示室が設けられている。

◆
本作は長い画業の出発期の作品。雪に埋まった校舎に北国の山や裸樹が配され、無心に雪戦会に興じる子どもたちが伸び伸びと描かれている。

1973年には「雪戦会の日」と題を改めて再制作され、江部乙小学校に作品が寄贈された。